

## 巻頭言

平成 14 年 3 月 1 日、「成育医療」という新しい理念を掲げて国立成育医療センターが開設され、およそ 3 年半が経過しました。同じ敷地内に遅れて着工した研究所の建設も昨年 10 月には完成し、活動を開始しました。ここ大蔵の地に国立成育医療センターが文字通り完成したことになります。

本年 3 月には約半年のセンター職員を挙げての討議のすえ、成育医療推進 10 ヶ年計画が完成し、本省はじめ各方面に発表されました。この計画を目標として診療、研究を推進することになります。内容はナショナルセンターの機能として掲げられている診療、研究、教育・研修、情報集積・発信のそれぞれについて、成育医療センターが期待されている役割を充分考慮して作成されました。当センターの掲げる成育医療の概念も次第に定着しつつありますが、10 ヶ年計画が策定され、われわれが何を指して診療や研究を推進するのかが一層明瞭になりました。目標は健全な次世代を育成するための医療と研究の推進であり、診療においては 安心して子どもを産み育てるための医療の推進 子どもが健やかに育つための医療の推進 リプロダクションステージにある女性のための医療の推進が謳われており、モデル医療と高度先進医療の推進を目標として掲げています。一方、研究所では成育医療を発展させるための基礎的研究及びトランスレーショナルリサーチの推進を目的として 初期発生の解明、胎児発育のメカニズムと異常発生機序解明 小児難治性疾患発生のメカニズムの解明とその理論を応用した診断・治療法の解明 ポストゲノムに向けた共通の基盤的研究の方法論の確立 成育疾患構造を明らかにするデータベースの作成、が主な課題です。今後はこの計画に従って、各年度の行動目標を定め、その達成度を評価するとともにセンターの活動を内外に情報発信することが重要な課題となると考えています。これらの達成のためには、病院と研究所が一体となって目標に向かって進むことが最も重要であると考えています。

平成 16 年度国立成育医療センター年報・業績集の劈頭にあたり、われわれ自身が策定した 10 ヶ年計画の実現に向かって、職員一同、一丸となって邁進したいと思います。

さて、平成 16 年度の国立成育医療センター年報・業績集ができあがりました。例年のように診療に関する諸統計数値、各部門の活動状況、調査・研究業績が収載されています。毎年、徐々ではありますが本センターの経営をはじめ研究業績が伸びているのは喜ばしいことです。母子医療を含む成育医療を取り巻く環境は少子化が深刻化するなかでも、厳しい現実にはさらされています。われわれが成果を益々挙げるとともに、それらを内外に発信することによりこの領域の医療が各方面から注目されることが最も重要なことだと思えます。この意味からもこの年報・業績集が広く目に止まることを期待したいと思います。

国立成育医療センター総長 秦 順一

平成 17 年 12 月